

東海大學日本語言文化學系校外實習心得報告 112 學年 2 學期

2024 年 8 月 31 日

學 號 / 姓 名	S11150100
實 習 地 點	黃蘭葉縹絲工藝工作室
實 習 期 間	2024 年 7 月 1 日 ~ 2024 年 8 月 31 日
實 習 心 得 內 容	<p>最初、「縹絲」は一体何なのかは全然わからない私から、今布を織ることができる私に変わりました。最初の時は本当に大変で、学ぶことが凄く多いのです。今はそれなりに作品ができるが、私が学んだ技法は「縹絲」のほんの一部しかない、まだたくさんの技法はまだ学んでいないのです。最初の一週間はほとんど布を織り始める前の準備工作学んでいました。「綜絲」を「綜統」で貫いて固定します。それから「穿綜」を学びます。「穿綜」は二人でやらないと効率が悪くなります。「穿綜」は本当に大変だと思います。布を織るよりも大変だと思います。大変な所は「穿綜」をする時の姿勢です。あっという間に首や肩や腰がすっごく痛み始めました。それとあと一つ、それはもし「穿綜」をする時に順番を間違えた時は全部やり直しの所です。私と仲間は初日やっと全部できたって喜んでいましたが、なのに翌日先生が昨日した「穿綜」は順番が間違ってるよって全部やり直しました。その瞬間本当に天から地獄に落ちた感じがしました。その数日、私の肩はいつもシップを貼っ</p>

ていました。でもこの経験があったおかげで私はその後「穿綜」をする時に丁寧にチェックをしました。本当に一回で懲り懲りしました。「穿綜」を終わった後は「穿筈」。これも二人でします。私は「穿筈」は「穿綜」より簡単だと思います。でもそれほど簡単ではない。その「筈」の密度から計算して一つの隙間に一つや二つの糸を貫けます。でもその隙間はすごく小さいので、目がかすんで一つの隙間を見落としたら「穿綜」の時と同じ全部やり直します。準備工作は少し無味ですが、全部できた時は少し達成感があります。それから私は布の織り方を学び始めました。最初は最も基本的な技法を学び始めた、「素面」という技法です。「素面」は文字通り何の柄でもない布です。最初の時は織る速度はどうしても上がらないので困っていました。でもどんどん織るとコツが得ました。「素面」は「緯糸」の中で最も基本的な技法です。「素面」を作るによって、「飛梭」を投げる訓練にもなります。「素面」の布を作る時は、必ず「機針」を使います。布を織る時は「鋼筈」に近い所の布の広さは遠い所より広い。「機針」とは遠い所の布をそんなに縮まらないように布の両端に刺さっているものです。竹から作っていて、その両端に針がくっつけると「機針」になりました。「機針」を使う時は力が必要です。私は「素面」の布をいくつか作って、「飛梭」を投げる方法もうまくなりました後は、先生は私に新しい技法を教えました。「紙の帯」の作り方を教えられました。最初は「紙の帯」を聞いた時は驚きました。「紙の帯」なんて聞いたこともないので、どうやって作るのかは少しワクワクしました。「紙の帯」を作るのは色々な道具が必要です。すごく厚い本と大きなはさみと「紙」を引く道具などがあります。「紙の帯」の「紙」と言うのは「亚克力紙織」とのことです。その「亚克力紙織」の上には色々な色彩が乗っています。私が使った「紙」の色は三つあります。各々の色は二







